

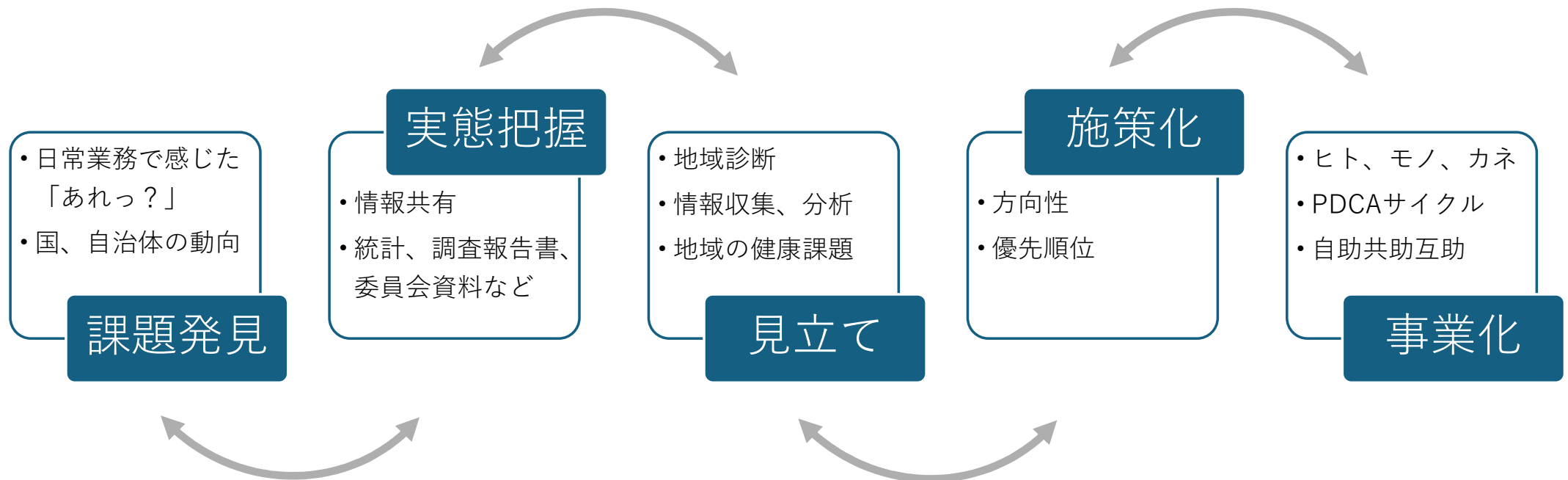
根拠に基づく事業・施策展開の実践～創造育成研修参加の経験から～

**「医療的ケア児とその家族の災害対策について
～まるごとつなげる災害ネットワーク事業～」立案のプロセス**



精神保健福祉センター 社会復帰部
社会参加支援担当 技師

個別支援から事業・施策展開へのプロセス



令和 6 年度保健師創造育成研修 4 グループ

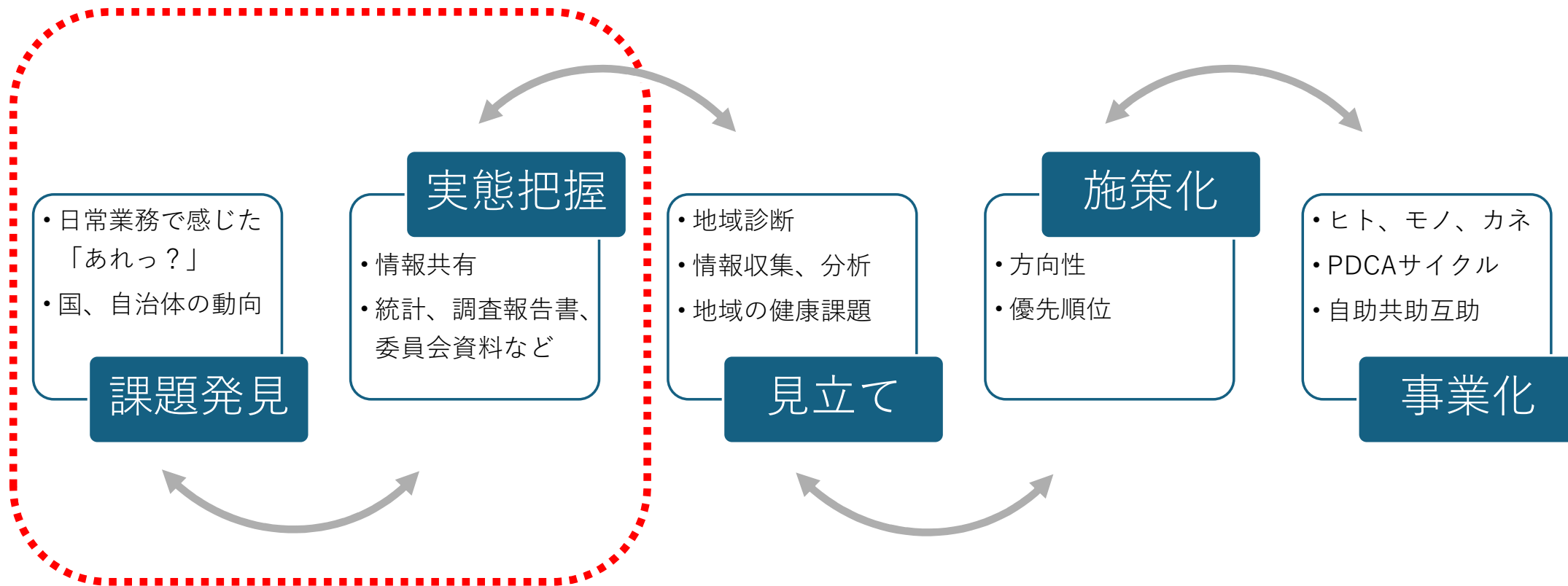
医療的ケア児とその家族の災害対策について ～まるごとつなげる災害ネットワーク～



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

○春日部保健所	大塚陽子	角野順子
狭山保健所	杉田理佳	
精神保健福祉センター		榎本唯
草加保健所	田中優	

個別支援から事業・施策展開へのプロセス



【はじめに】

災害に対する関心・意識は高まっている

実際、災害時の備えはどの程度できているの？

災害時に備えた医療的ケア児・家族への支援の仕組みはどうなっているんだろう？

自助：医療的ケア児・家族

人工呼吸器等の医療機器の電源確保や必要物品の準備は？

日々の看護も大変
防災準備する余裕がない？
何を準備すればいいか
分からない？

共助：地域

地域の中で医療的ケア児・家族
は把握されてる？

支援が必要だと
思われていない？

訪看だけが把握して
いればいいの？

公助：市町村・県

避難所、福祉避難所の体制は？
どこまで支援してもらえるの？

避難訓練や要支援者登録・個別支援計画
は市町村によって取組みが違う？

医療的ケア児とその家族が災害時に備えて安心・安全に生活できることを目的とし、
課題解決のために、こういった取組が必要が検討した

埼玉県の現状①

参考 令和6年度第1回埼玉県自立支援協議会医療的ケア児支援部会資料
令和3年度埼玉県医療的ケア児者等実態調査結果より

医療的ケア児の人数

- ・ 県内860名（R5年度）。医療技術の進歩に伴い増加。H30年度の446人から5年で約2倍に増加。人工呼吸器を使用している児は70名（R3年度）。

医療的ケア児者 協議の場

- ・ 単独で設置：34か所 圏域で設置：19か所 未設置：10か所（R6年4月1日現在）増加傾向。

医療的コーディネーター 配置状況

- ・ 単独で設置：39か所 圏域で設置：16か所 未設置：8か所（R6年4月1日現在）増加傾向。

埼玉県現状②

参考 令和3年度埼玉県医療的ケア児者等実態調査結果（n=336）

災害時に同居家族以外で手助けをしてくれる身近な人の有無

- ・ いない：52% いる：46% 未回答：5.2%

災害時の本人の状況の連絡先

- ・ 決まっていない：65% 決まっている：32% 未回答：3%

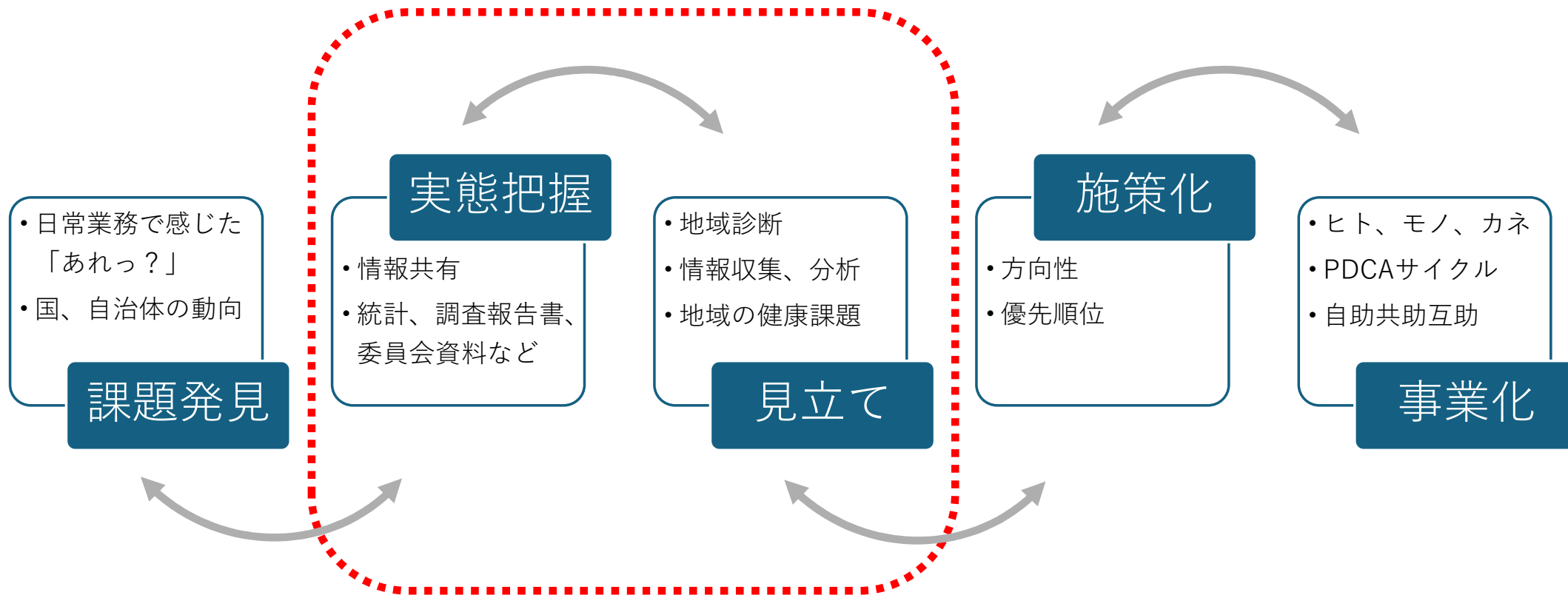
避難行動要支援者名簿の登録

- ・ 登録されていない：41% わからない：37% 登録されている：21% 未回答：1%

どこに相談したらよいかわからない事案

- ・ 災害時の避難場所や受入施設の情報
- ・ 災害発生時の移動方法、移動手段
- ・ 容易に避難できない場合の災害時の援助について
- ・ 災害が長期化した場合の電源や薬の確保について
- ・ 災害時の地域の受入病院について
- ・ 災害時に医療的ケア児が一人になってしまった場合の対応について
- ・ 災害時の避難生活や医療機器（電源確保含む）等に関する支援について

個別支援から事業・施策展開へのプロセス



【調査（インタビュー）】

目的

- ①医療的ケア児の家族が感じている災害時の課題や実情を把握する
- ②地域と連携した取り組みを実践している団体から地域の実際や防災意識への課題や行政への期待などを聴取する



1. 家族会Ohana

新聞記事R6.8.11読売新聞
「医ケア児災害避難に備え」
カリヨンの杜で防災を学ぶイベ
ントを開催。



2. カリヨンの杜

埼玉県医療的ケア児等支援センター
地域センター

【調査内容・結果（インタビュー）】



1. 家族会Ohana

○防災イベント実施の経緯

埼玉県は災害が少なく、当事者や行政としても災害対策に関する意識を持ちにくいと感じているため。

だからこそ防災
準備が必要だね

○実施内容

講演、ワークショップ、ピザ・パン屋の出店や展示会、交流会や情報共有、アルファ米の試食など。

○連携機関

協力：カリヨンの杜。後援：さいたま市、民間企業、家族会。

楽しく学べる環境
が必要だね

○参加者の状況

80名超。その内車いす利用者は十数名。

さいたま市近隣だけでなく、日高や東松山、熊谷など全県から申し込みあり。

全県からニーズが
あるね

【調査内容・結果（インタビュー）】



1. 家族会Ohana

交流の場を求めているのかな

体験するとイメージが持ちやすいね

○実施した参加者の声

「いろんな関係者の方々と知り合う機会があったらうれしい」「“体験してみる”が一番理解できると思う」「なんとなくしか思っていなかった“防災”だったが、目の前にも起こりうることを改めて考えさせられた」「車いすで移動できない、階段・エレベータが使用できないときはどうすればいいか知りたい」SNS等で多数の地域から「自分たちの地区でもやってほしい」等の声があがった

防災意識に偏りがあるね

○医療的ケア児の災害時の備えの実態

災害時、医療的ケア児家族は、市役所や病院、カリヨンの杜や小児医療センターを頼みの綱にしてしまいがち。

民間企業や地域との連携も大切だね

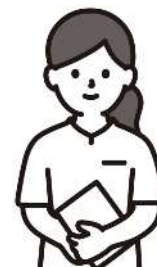
○行政・関係機関への期待

自家発電機がある建設会社や大きな工場に平時から声掛けしたり、近隣住民とのつながりが大切。電源確保が重要。ガソリンスタンドで優先的にガソリン供給をできるよう、行政から呼びかけてくれたら嬉しい。個別支援計画も県や国で統一した様式があると作成しやすい。小児慢性から指定難病への移行ができる人、できない人がいるので、支援のつながりがあるとよい。

市町村によってやっぱり差があるね

【調査内容・結果（インタビュー）】

2. カリヨンの杜



○地域の団体として、課題に感じていること、行政に期待していること

課題：電源確保をカリヨンの杜で引き受けるは難しい。備品にも制限がある。

行政への期待：人的、物的（食料）、資金的（自家発電機、水・電気・ガス、ソーラーパネル拡大のために必要）な支援を公的にして欲しい。

だからこそ自助を
高める必要があるね

○イベントに協力した感想

感染症や急な病なく実施できてよかった。

他支援者や行政関係者からは「医療的ケア児の方が避難時どんなものが必要なのか参考になった」

「医療的ケア児の方とご家族が毎日どのような生活を送っているのか、皆さんに知ってもらいたいことは何か、を学びたい」など

人的・物的・資金的
支援が足りないね

地域の人にも
知ってもらいたいね

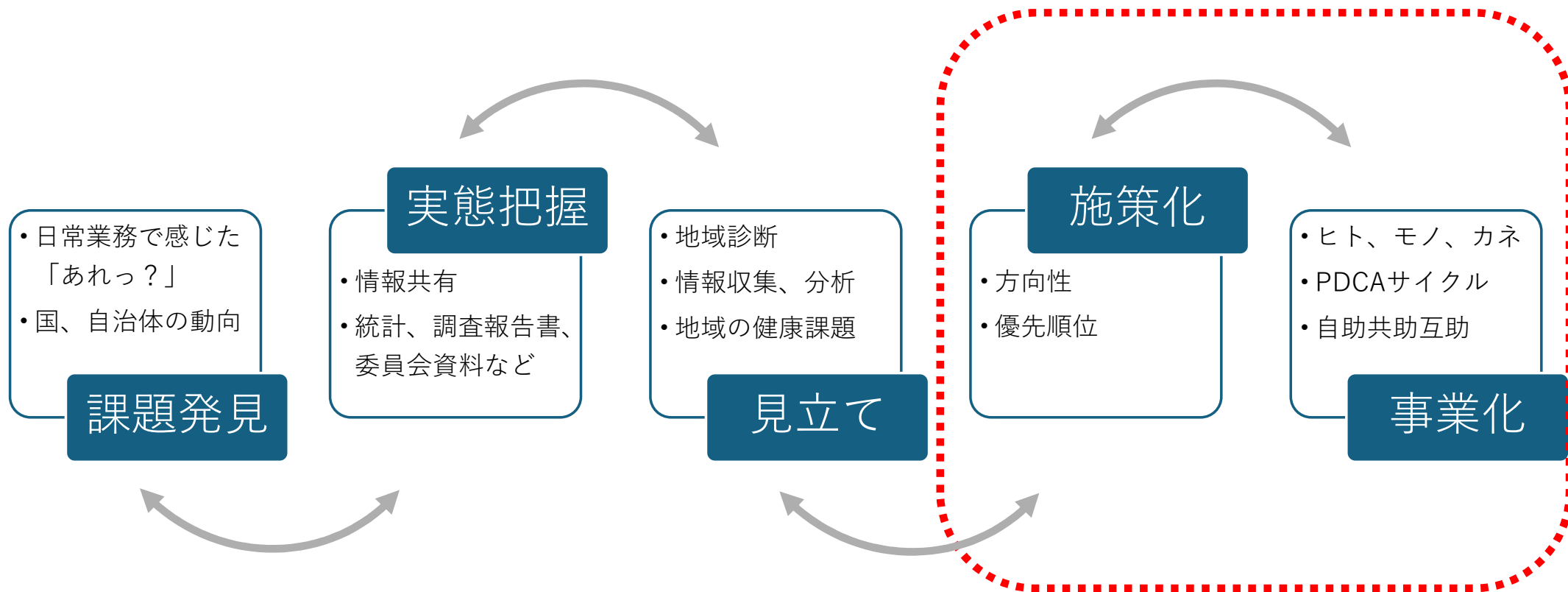
県として何が
できるかな？



考えられる健康課題

- ①医療的ケア児とその家族及び支援者の防災意識に差があり、災害時の動きについてイメージが持てず、必要な備えが不足している
- ②医療的ケア児とその家族が平時・発災時に受けられる災害時支援に地域差がある

個別支援から事業・施策展開へのプロセス



事業案：まるごとつなげる災害ネットワーク

目的

現在、医療的ケア児の災害対策について、民間事業所や行政機関、医療機関などそれぞれの分野で取り組んでいる。しかし、それぞれの役割の理解や情報の共有が困難な状況、及び当事者の状況に関する理解の差がある。

そのため、埼玉県医療的ケア児等支援センター・地域センターを中心に災害対策に関する検討の場を設けることで、分野横断的なネットワークづくり及び災害に関する知識や技術の向上を図っていく。

事業案：まるごとつなげる災害ネットワーク

①ヒアリング

目的

協議の場の有無の差の解消、障害福祉・防災・保健分野の庁内連携促進

内容

保健所が管轄市町村の「医ケア児の協議の場」へ参加。全県統一の質問票をもとに災害時の取組みや課題を把握。障害福祉・危機管理・保健担当課を集めてヒアリングを実施。市町村における医ケア児への支援状況、災害時の取組みを情報収集するとともに、協議の場での意見を共有。

②情報集約データベース化

目的

担当者が変わっても安定的に自治体内・外で情報共有が図れる体制の整備

内容

ヒアリングした内容を地域センターごとに集約しデータベース化。データベースを個別支援へ活かす（医ケア児家族への情報提供等）ことができるよう各自治体でデータベースを確認できるよう整備。

③連絡会の実施

目的

各自治体を越えた情報・課題・好事例の共有ができる地域の体制整備

内容

地域センター（かけはし、たいよう、ともに、カリヨンの杜）ごとに連絡会を実施し、県内外の好事例を収集・紹介。地域課題解決に向けた意見交換。（例）避難訓練や、個別支援計画を活かした支援等

④防災イベントの実施

目的

地域全体の防災意識の向上、医ケア児の存在の浸透、地域ネットワークの強化

内容

連絡会において、手上げ方式で災害対策イベントや防災フェスを実施。実施した地域は協議の場へフィードバック。開催にあたり訪問看護や民間企業、地域の自主防災組織へ周知し協力を依頼。はじめは医ケア児に絞り、徐々に地域全体のイベントとして拡大し地域で医療的ケア児の存在を浸透図る形で実施。

まるごとつなげる災害ネットワーク 期待できる効果

情報のデータ
ベース化

連絡会の実施、
先進的取り組みの共有

協議の場へ
の参加、
ヒアリング

- ・各自治体の医ケア
児支援の状況集約
- ・各自治体内の連携
促進

- ・各自治体の医ケア児
支援について、地域の
傾向や社会資源の見え
る化
- ・個別支援の充実

- ・支援機関の防災に
関する意識の向上、
取組の推進
- ・個別支援計画の具体
化
- ・地域格差の減少

医療的ケア児と家族向
けに防災イベントの実
施、民間企業との連携

- ・医ケア児と家
族の防災意識向
上（具体的な行
動化）

地域全体に向けた
防災イベント・
交流会の実施

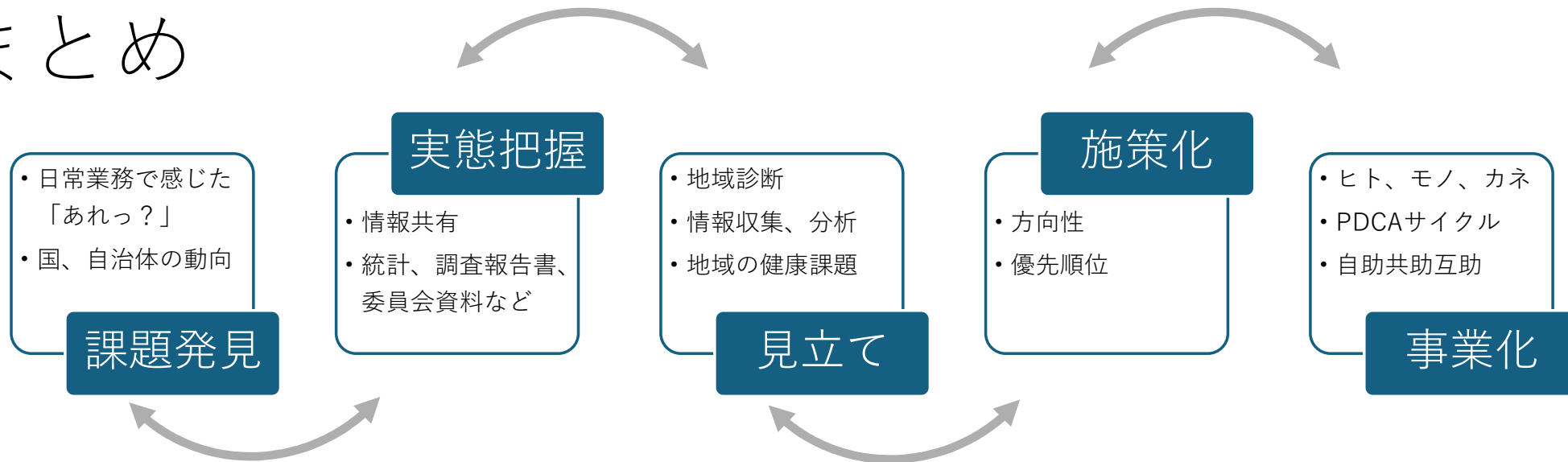
- ・地域の中で
医療的ケア児
と家族への認
識が広がる
- ・分野横断的
なネットワー
クの広がり

平時から災害時に備えて
医療的ケア児と家族が
安心して生活できる
地域へ！！

まるごとつなげる災害ネットワーク つながるイメージ図



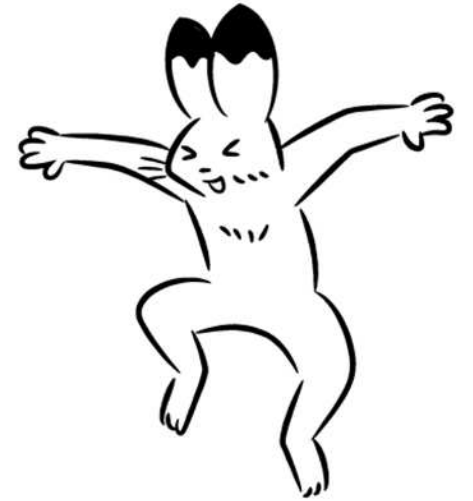
まとめ



- 世の中の状況や国・自治体の動向にアンテナを張ろう
- 公衆衛生の視点で個人/家族/集団/地域をみよう
- 個別事例から根拠に基づいて地域の健康課題を見立てよう
(+ 事業化・施策化も提案してみよう)

3年目のみなさまへ

- 日々のセルフケア
早めにストレスサインに気づく
自分を元気にする方法を知っておく
- 仲間づくり
保健師仲間がたくさんいると心強い
大変なときも支え合える仲間



ご清聴ありがとうございました

